

●主な活動の記録 (7月～9月)

7月4日(火) 環境出前講座 椿井小学校

同校3年生36名が正規の授業として、午前中の2コマを使って実施。スタッフ6名が指導に当たった。当クラブの活動紹介に続き、近づく台風を題材に、雨風から木や森林が守ってくれていることから解き初め、この他の役割を児童に考えさせ発表させた。皆は積極的に手を上げ、的確に答えていた。時間に限りがあり、答えが出尽くしていない分、後は家に帰っての宿題とした。

この後、木工クラフト指導として、モクマルくん・モックンづくり。モクマルくんは木の大小の輪切りを組合せ、又マジックペンで色付けしたり、木の実や殻取り付けていろんなフィギュアをどんどん作っていた。これが一段落すると、今度はサクラの小枝の先を鉛筆削りで尖らせ、ヒートン・糸を付けてストラップや、目鼻をつけたおさるさん等を作り上げた。最後に竹笛づくりをした。



木・森の働きを考える



材料の選択



製作中



作品を手に

7月8日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

参加者23名。今年度の新規事業として申請していた、「緑の募金」公募事業—ふるさとの森林再生事業 “憩いの場としての健全な森林づくり”助成決定を受けての、一回目の活動。事業の目的は、モミジ谷の近畿自然歩道沿いのヒノキ林の間伐と尾根筋の雑木林を整備し、景観を回復し、憩いの場づくり。久し振りの間伐作業故、経験者も含め、基本の再徹底の観点から、下記手順を追って説明を加えながら進めた。

- ・作業地の確認、10メートル四方内の木々の実測(胸高直径)
- ・立木22本の総直径から平均直径の算出—適切な間伐本数の設定
- ・選木—間伐対象木を選ぶ—劣勢木の順序・バランスを考え
- ・間伐準備—伐倒方向決め・ロープ架け
- ・伐倒手順—伐り手・セコンド・引き手最低3人—組、根本周りの整備、受け口・追い口
- ・チェーンソーの取り扱い、伐倒後の玉切り、枝払い手順

午後からは、クラフト材料準備のため半数ほどが交流館へ戻り、残り3班に分かれての作業。方向見極めての伐倒ながら、非常に高木、かつ枝振りもしっかりしていることから、架かり木避けられず、一部チルホールを使って引き倒した。終了後の定例理事会報告:

- ・春日奥山古事の森協議会より、鹿害ネット修理依頼、シンポジウム開催予定(10月24日)
- ・今年度助成事業、「緑の募金」公募事業、FV連リーダー研修の決定
- ・奈良北高校森林環境教育、例年通り12月実施予定
- ・山の日川の日月間、協賛イベント内容の検討、森林作業とクラフト
- ・草木染め—一般参加公募で8月26日実施



作業手順説明



胸高直径実測



受け口づくり



チルホールで

7月17日(月) 山もりてんこ森 フォレストパーク神野山

「山と川の月間」に因み、県下各地で多くの多様なイベントが催されて中で、メインイベントとして県主催で開催された。この日、当クラブもブースを持って、スタッフ14名が参加しクラフト指導にあたった。ジィジィゼミ・竹笛・ガリガリトンボを来場の子供達に作らせた。今年は、例年の会場である県立野外活動センターが工事中のため、この地での開催となり、地の利を考えるとあまり来場者を期待できないと思っていたが、開場前から三々五々集まり始め、高田市のカブスカートの団体参加等もあり好調。わがブースには150人を超える子供達が、各自で作るのを楽しみ、早速鳴らしたり、回したりしていた。全体の来場者は約630人。当日の出展は、自治体も含め22団体。



準備中



呼び込み



—製作中—



7月22日(土) 森林作業体験と森の恵みのクラフト 矢田山遊びの森

定例活動のこの日、県「山と川の月間」協賛イベントとして開催。定刻までに集まった4家族9名を迎えて実施。午前中は、森林作業体験として、現在「緑の募金」助成事業として手掛けている”憩いの場としての健全な森林づくり”として整備中のモミジ谷人工林に案内。森林の特徴・役割・整備の必要性等を説明後、まず前回の定例活動で伐倒したまま置いておいたヒノキの枝をノコギリで切り払った。次いで竹べらを使って皮むき体験。剥いた後の木肌に素手で触って、しっとりすべすべの感触に皆は一様に感激。皮を剥いたものを今度は1cm程の輪切り。これを午後のクラフトの台として持ち帰る。最初ぎこちないノコギリの使い方だったが、段々慣れて来て、終わる頃にはもっと切りたいという子もいた。

午後、持ち帰った輪切りの上に、各種の木の実を組合せて小動物など思い思いに幾つか作った。

定例活動に実施の10名程は、20周年記念植栽地での坪刈りを実施。更には予め準備しておいた、散水用貯水タンクとしてドラム缶2個を据え付けた。ポリタンクで運び込んだ水は撒き終えたため、タンクへの蓄えは雨待ち。本日の参加者17名。



枝払い



皮むき



輪切り



作品を手に

7月23日(日) むし祭りークラフト指導 檀原市昆虫館

イベントに出展の県中部農林振興事務所の要請で、当クラブ員5名が参加。作るのは”むし祭り”に因ん

で、木の実や木・竹の小枝を使って昆虫づくりとジィジィゼミづくりを指導。ひっきりなしに来場の子供達、まず森林クイズに挑戦。予め用意されたパネルを参考に答えを考え採点後、クラフトづくりに取り組んだ。来てくれた子供は200人超えて大忙しの日だった。



— 製作風景 —

7月27日(木) 環境出前講座 奈良市左京バンビーホーム

クラブ員7名が左京小学校に出向き、森林環境教育と木工クラフト指導。クラブの活動・スタッフの紹介に続き、森林環境教育としては低学年が多かったので、配布したイラストをもとに光合成と食物連鎖を中心に質問を交えながら説明。ついで木工クラフトとして、大きさの異なる竹の輪切りとドングリや木の殻等を組合せ置き物づくり。ビーズを使って飾り付けをしたり、一人で数個を、皆楽しみながら一生懸命に作った。中々の出来映え。



活動紹介



作品の数々



話を聞く

7月31日(月) 環境出前講座 奈良市富雄南バンビーホーム

参加児童が65名と多く、低学年と高学年2教室に分かれ、森林環境教育とクラフト指導をスタッフ6名で実施。当クラブが現在取り組んでいる活動内容を紹介に続き、森林環境を説明しながらその役割について皆で考え、答えさせた。結構活発に手を上げてくれていた。

木工クラフトは、①モクマルくん—小口切りしたサイズの異なる木を組合せ、木の実を付けたりして思い思いの置き物や釣り飾りづくり ②モックン—サクラの小枝の先を鉛筆削りでとがらせてのエンピツくんや動眼を付けたり、切込みを入れ顔状の物をつくり、いづれも紐をつけストラップや首飾りづくり途中、教室を入れ替わり交互に作らせた。先生方7名がアシスト。



見本で説明



材料選び



製作中



作品を手に

8月1日(火) クラフト指導 学園前幼稚園”リトルファンファン”

同園夏祭りイベントの一つとしてのクラフト指導に4名が参加。この幼稚園は園児25名のこじんまりとして家庭的。水鉄砲用に真竹、コッポリと花器用に孟宗竹を準備。お母さん達に水鉄砲の竹への穴開け・心棒の布巻きやコッポリの三つ編みのひもつけを手伝ってもらい、楽しいおもちゃの出来上がりです。

当日は4区画に分かれて、①流しそうめん ②お母さん手作りのティアラ・小物やかき氷・フランクフル

トの販売 ③上記竹のクラフトや作品へのお絵描きと竹笛づくりーとても人気がありました。以上は室内で、外では出来たばかりの水鉄砲をつかって的当てーみんな上手に的にあてていました。

最後にスイカ割りがあり、親子共々皆ゆかいに楽しそうだった。



作成風景



水鉄砲での的当て

8月11日(金) 森の学校 二上山ふるさと公園

「山の日」のこの日、県中部農林振興事務所が開校。森林観察とクラフト指導の要請を受け5名が参加。竹笛・ジージーゼミ・木の実を使った置物づくりを行った。参加した子供達は、受付でもらった森林に関するクイズを、用意された数個のパネルを見ながら答えを書いた後、クラフトづくりに取り組んだ。クイズはほとんどの皆が正解。早速作った竹笛を吹いて音色を確かめたり、指使いによる音の変化を楽しんでいた。振り回すとセミの鳴き声の様な音が出るジージーゼミ、勢いよく振って遠くへ飛ばしてしまう子もいた。この間森林観察を午前と午後一回づつ実施。森林インストラクターでもあるクラブ員から木々の説明を聞きながら、裏山を往復。30名強の親子連れが参加。クラフトづくりに参加したのは120名強だった。今回初めて備えられた木のボールプールも結構の人気。



受付でクイズ用紙を



置物づくり



森林観察



ボールプール

8月12日(土) 「山と川の月間」協賛イベント 矢田山遊びの森

一般の親子連れ9名とクラブ員14名が参加し実施。モミジ谷で間伐班と子供の森林作業体験指導の二手に分かれての作業。間伐班は3~4名のグループに分かれ、リーダーの指示の下で間伐作業。倒した木は後日シイタケ銀行の柵の作り替えに使うため、皮を剥き、樹冠は残し葉枯らしするため長いまま現地に横たえた。子供の森林作業体験は、下草の刈取りと灌木の除伐をノコギリで行った。最初はノコギリをうまく使えなかった子も徐々に要領を掴むと楽しそうに切り取っていた。次いで予め玉切りしておいた間伐材の皮むきをし、午後のクラフト用に輪切りをした。皮むきは上手く取っ掛かりが出来るとピーと大きく剥け気持ちよさそう。午後子供達は子ども交流館で木の実を使っての置き物づくり等を楽しんだ。一方クラブ員は、チェーンソーの手入れと目立ての講習会を実施。なお本日のイベントは「緑の募金」助成事業”憩いの場としての健全な森林づくり”を兼ねている。3名の女性参加者は、26日一般参加者を募って行う草木染め体験のための器具の点検等の準備を午前中に、午後は子どもたちのクラフト指導にあたった。終了後の定例理事会報告。

- ・近接の追分梅園組合から申し入れのある共同作業の対応ー26日午後面談予定
- ・ボランティア保険の実績報告
- ・予定されている法改正での”NPOの貸借対照表の公告”に関する打合せ報告
- ・今後のスケジュール検討等



皮むき



子供の森林作業体験＝林内整備・皮むき＝



クラフト



8月16日(水) 自主活動 矢田山遊びの森

林野庁助成事業「森林・山村多面的機能発揮対策事業」、今年度より新3年間の事業に入っており、先月まで手掛けていた侵入竹並びに姫竹の除伐が一段落。ついで林内整備として、「みんなの森」遊歩道左斜面において、草刈り・灌木・枯損木の処理。今回の特徴は列状整備にて、本日参加の8名が2班の分かれての作業。ナラ枯れの大きな風倒木の処理を初め、順調に進めた。作業後は、樹間を通し陽が奥まで射しこみ、少しながら風も通り、暑さの中の作業の疲れを一時癒してくれた。今回、新たに課された課題である植生調査の為、林内5mの範囲をテープで囲い、全ての幼木・灌木一本ずつ数えて記録した後、除去し3年後にあらためて調査するもの。

8月26日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

午前中、参加者14名の内草木染めの準備をする4名の子を除き、全員でR308沿道整備作業を6月に続いて実施。土曜日故結構車の往来が多い中、見張りを立て安全を確認しながら進めた。午後は、軽トラ置き場へのアクセス整備。砂利と土を混ぜて土嚢に詰め、路肩の窪みに敷き込んだ。同時に炭窯周辺の草刈り。久しぶりに取り組んだ草木染め、コテマリとクズを材料に綿のハンカチをいずれも淡い黄色や薄緑色の自然な柔らかい色合いに染め上がった。

午後、矢田山に隣接の追分梅園組合の代表者の訪問を受け、当クラブの理事と共同ワークについての話し合い。同組合を中心に、梅園の維持を核として地域おこしのための新しい各種取組みの説明を受け、これにはマンパワーが欠かせずそれを当クラブ員の参加に期待されている。支援する方向で各自のスケジュールの許す範囲での協力を約した。



沿道整備



アクセス整備



コテマリの採集



染め上り

9月3日(日) 自主活動 矢田山遊びの森

久しぶりに30度を下回る爽やかなこの日、新入りの若い女性を含め9名の参加で、林野庁助成事業としての林内整備。草や笹を刈ってから、灌木の切り取り、雑木・枯損木の除伐と手際よく作業をやったため順調に整備が進んだ。谷間での昼食時には下から柔らかな風が吹き上がってきて心地よい一時で作業の疲れが癒された。又、修了後に、振り返ると整備の終わった北斜面には陽が大きく差込み、やりがいを感じ気分よく山を降りた。初参加の女性は、適度に体を動かした後のお弁当は格別美味しく、又一日を気持ち良く、楽しく過ごせため、続けて活動に参加したいとのこと。

9月9日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

参加者 17 名。新加入の女性の自己紹介の後、午前中は全員で、「緑の募金」助成事業モミジ谷での間伐・林内整備を実施。作業前に、間伐の際のかかり木の取り扱いでの注意事項並びに木廻しの使い方要領を説明の後、間伐班は 3 グループに分かれ、それぞれリーダーの指示の下、作業を進めた。高木・大径木もあり、結構苦戦する場合も。又早速木廻しの出番も。女性 2 名を含む林内整備班は、近畿自然歩道沿いを中心に雑木の除伐。

午後、先月実施のチェンソー講習会の復習を兼ねて再度実施。目立て終了後各自切れ味を見るべくナラ枯れ処理木を使って試し切り。結果は総じて合格点。来月の本格的な間伐作業に取り掛かるに備えた。過日の追分梅園組合との打合せに基づき、早速 12 日実施の梅林坪刈りの助っ人の派遣要請を受け、希望者 2 名が参加することとなった。



間伐



除伐



林内整備



講習会

9月20日(水) 自主活動 矢田山遊びの森

参加 11 名。当初予定されていた林内整備、午後に”四季彩の庭”Web サイトの取材が入ることから、終日頂上展望台”永遠の森”植栽地の下草刈りに変更。植栽樹の為に水を満たした 7~8 個のポリタンクと共に、二台の車で展望台へ。午前中手分けして、サクラの成長が予想以上に早く、鳥居杭に縛った紐がきつくなっておりこれの手直しと植栽地の半分ほどの下草刈り作業を実施。

午後、県の担当者を含む 4 名の取材陣が到着。現場並びに作業内容を簡単に説明後、刈り残した頂上展望台広場を中心に作業再開。この間の様子を色んなアングルから撮影。最後に集合写真。この後、インタビューを受ける為、取材陣と役員は先に下山し情報館へ。

クラブ設立のいきさつ・目的、主な活動内容、課題、今後の取り組み等、幅広い質問を受けた。加えて県の”四季彩の庭”の指定を受けた設立 20 周年記念事業”永遠の森”づくりに至る経緯を説明して終了。



下草刈り



巻き落とし



取材のカメラマン



インタビュー

9月23日(土) 定例活動 矢田山遊びの森

参加 15 名 全員で”みんなの森”一番奥近くにある苗畑を中心に草刈り整備。下刈り器と弁当を持って、途中前夜の風雨のため落下したナラ枯れの大小多くの枝が遊歩道を塞いでおり、これらを跨いだり、片付けをしながら現地へ。作業地はぬかるみやイノシシに荒らされた所を避けながら、草を刈ったり、背丈以上に伸びた笹を大鎌や下刈り器で、2~3 段切りで切り拓いていった。見通しもきいてきたので少し早めに切り上げ下山。近辺には、10 年程前に植栽したヤマザクラ・カエデ・カキ・クリ等が、大きく成長したのに加え、これと競い合うようにして自生のホウノキが大きく伸び、立派な葉を茂らせていた。

